

三嶋神社 頼朝公ゆかりの神社



上大井の三嶋神社は昔、大井の宮といわれました。宮の縁起によれば、源頼朝が伊豆国蛭が小島に流人の身となっている時、平家追討、源氏再興の願いを同国の三嶋明神にかけていました。治承4（1180）年頼朝挙兵の年、三嶋明神を修理し、8か所に三嶋明神を建立しましたが、当神社はその随一であるといわれます。

その後、多年の宿願であった平家追討がなり征夷大将軍に任ぜられてからは、益々崇敬の念が強くなり、建久4（1193）年、富士の巻狩の際も当社に奉斎したといえます。

弁天社

三嶋神社の池の中に建てられています。

源頼朝の妻政子は、伊豆国三嶋大社を信仰しましたが、その中でも厳島弁財天を信仰し、ついに征夷大將軍源頼朝の妻となって願いが成就したので、伊豆、金沢、当所その他の三嶋神社に弁財天を勧請したのです。

当社は、元文3（1738）年12月に焼失し、明治15（1882）年に再建されたものです。



ムクノキ

うっそうと茂る三嶋神社の森の中でひときわ目につくのは、薬師堂の横にあるムクノキです。県選定「かながわの名木百選」に指定され、優雅な姿をみせています。



薬師如来（県指定重要文化財）

三嶋神社の本地仏である薬師如来（坐像）は、鎌倉時代中期（13世紀中頃）に制作されたもので、関東地方には数少ない中央風（京都）の作品であり、補修もごく少なく当初の状態をよく保っているとの理由から、昭和62年に県の重要文化財に指定されました。薬師如来坐像は、境内の薬師堂に祀られ、頭部内に「運慶作也」と墨書銘があることから、運慶作と伝えられてきました。しかし、本像は運慶作品に広くみられる力強さがあまり感じられず、お顔は柔らく比較的浅く彫られた衣文線は流麗、全体に洗練された作風と技法が見られることから、京都・奈良の周辺の仏師の作品と考えられています。

大井町内には、数少ない鎌倉時代の仏像として貴重な存在です。



県指定重要文化財 薬師如来（坐像）

昭和62年11月20日指定

※薬師堂は毎月12日に開帳されます。

算額（町指定重要文化財）

算額は神社や仏閣に奉納した数学の絵馬のことで、数学の問題が解けたことを神仏に感謝し、ますます勉学に励むことを祈願して奉納されたものといわれています。



町指定重要文化財 算額 平成24年11月30日指定

この風習は江戸時代前期頃から始まったものとされ、問題の解き方は現在使われている洋算方式ではなく、日本人独特の計算方法である和算が使われています。

こうした算額奉納の習慣は日本独自の風習といわれており、大井町にも昔から勉強熱心な人がいたことが伺えます。県内に現存する算額は少なく、本額は、文字の部分は墨落ちが進んでいるものの、図柄の色彩は鮮やかで大変貴重な作品です。

【問題の例】



問題（訳）

「今円内に、図のように甲円二個、乙円二個、丙円四個が有る。円に内接する赤い部分の面積が与えられた時、丙円の直径を得る方法がわかりますか？」

答え（訳）

「解法は赤い部分の面積を円積率および六で割って、平方根を求めれば丙円の直径を得ることができます」

※円積率は円周率の四分の一

三嶋神社文書（町指定重要文化財）

三嶋神社には、中世から近世までの文書が多く伝えられており、縁起と関連があるのは観応二（1351）年の「足利基氏寄進状写」^{あしかがもとよしきしんじょううつし}です。また、応永三十（1423）年の「足利持氏寄進状写」^{あしかがもちぢしんじょううつし}は、持氏と同社との関係を伝えています。これらはいずれも写しですが、戦国大名北条氏関係の文書五通は全て原本で史料価値は高いです。その中でも大永二（1522）年の伊勢（北条）家朱印状は、社領や神主屋敷の諸役免除などを定めたもので、北条氏が伊勢姓を用いている時期の文書であり、原本が確認できる虎朱印状^{とらしゅいんじょう}として最古のものです。町内に所在する中世文書は数が少なく、三嶋神社文書は同社に限らず大井町の歴史を知るうえでも重要と言えます。

